

学生企画活動支援事業紹介

学生企画活動支援事業とは、学生が自ら企画する事業の内、優れたものに対して大学が経済的支援等を行い、学生自身に実体験させることで、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資することを目的としたもので、平成16年度から実施しています。今回は、採択された8事業のうち、「KYOU-YOUプロジェクト」「手話を学ぶ」「造形ひろば」「理科実験教室 in 奈良教育大学」の活動を紹介します。

KYOU-YOUプロジェクト

「KYOU-YOU」プロジェクトが主に行っている「避難所HUG」とは、実際に避難所に来た避難者を状況に合わせてうまく各教室に配置したり、あらゆる要求に対応したりするという避難所シミュレーションゲームです。「避難所HUG」を通して、防災の大切さや、避難とはどのようなものかということを実際に災害が起こる前に学んでほしいと考えています。

「避難所HUG」を通して、私は地震などの災害の恐ろしさや避難することの大切さ、防災の重要性だけでなく、実際には避難してからのしなければならないことがたくさんあり、避難することがゴールではないということを知りました。そして、活動を続けていくごとに、避難所運営にはたくさんの知識と考え方が必要であること、学校と地域が連携することが重要であることを感じています。今年度は将来教員になり災害が起こり避難所が設置されたときに活躍する奈良教育大の学生にたくさん参加して頂きたいと考えています。より良い活動に向けて活動内容も工夫していきたいです。

(心理学専修 3回生 榎原 梓)



子どもたちと活動している風景



体育館で活動している風景

手話を学ぶ

「手話を学ぶ」は、実際に聴覚障害があり、手話を言語としての方を講師としてお招きし、日常的に使うことのできる単語や、その季節のイベントに関する単語などの手話表現、そして、聴覚障害のある方にしか分からないような、日常生活での苦労や困難を教わるという企画です。

この「手話を学ぶ」の活動を積み重ねていくことで、初めは読み取れなかった講師の方の手話を、だんだん読み取れるようになったとき、何とも言えないうれしい気持ちになりました。堅苦しい雰囲気ではなく、ゲームなどを通して、楽しみながら手話を学ぶことができるので、参加している学生は、とてもいきいきと手話を学んでいます。

そして、手話を学ぶだけではなく、聴覚障害のある方の日常生活での苦労や困難を教わる中で、私たちが普通に過ごしているだけでは気付かなかったようなことをたくさん知ることができるのが、この「手話を学ぶ」の活動の良いところだと思います。

(特別支援教育専修 2回生 島 菜那子)



クリスマス会の様子



手話で行う伝言ゲームの様子

造形ひろば

造形ひろばは、今回で18回目を迎え、学生企画活動支援事業としては、本年度の採択で15回目となりました。地域の親子、子どもたち、大学生に向けて「ものづくり」を通して交流することができる場の提供を目的として活動しています。多くの人に造形活動の楽しさを知ってもらうためにはどうしたらいいのかと試行錯誤しながら活動しています。

苦労していることは、多くの人にどのようにして造形活動の楽しさを知ってもらうのかということです。そのために今年は粘土の造形活動以外に新たなブースも作ろうと考えています。

やりがいとしては、「毎年、この造形ひろばを楽しみにしているよ」という声を多くいただくことです。今年も多くの人に造形活動の楽しさをより知ってもらえるように教材研究などに取り組みたいと思っています。

活動を通して、造形の楽しさを伝える大切さを知り、教員になっても子どもたちに造形の楽しさを伝えていけるようにしたいという気持ちが強くなりました。

(美術教育専修 4回生 鈴木 朝)



造形ひろばでの製作風景



子どもたちが作った作品

理科実験教室 in 奈良教育大学

「理科実験教室 in 奈良教育大学」は小学生を対象にした、身の回りの科学を扱った理科実験教室です。今年のテーマは「溶解度曲線を描こう」・「プラスチックの不思議」でした。初めて見る再結晶の様子に目を輝かせたり、身近な繊維ができる瞬間に驚いたり、様々な表情が見られました。

学生は皆スクールサポート等に参加しているものの、一から企画して理科実験教室を行ったことは初めてだったため、計画を順序正しく進めることが難しく、「実験は準備が9割、当日が1割」ということを痛感しました。また、各学年の教科書を読んで様々な学年の子どもたち全員が満足する教材・教具を作成することにも時間を要しました。大変な中でも、やはり子どもたちの驚きの声や「また来年やってや!」などの声を聞けたときは、頑張った甲斐があったと、現場の先生方が感じておられる喜びを私たちも感じることができた瞬間でした。貴重な経験をさせていただき、心から感謝しております。

(教科教育専攻 大学院1回生 市村 真優)



はじめの挨拶



実験開始! どれがとけるかな?